

失 敗 の 考 察

科目責任者 菊 池 昌 彦

学年・学期 1 学年・2 学期

I. 前 文

医療現場で遭遇するおそれのある医療過誤、医療事故などを実際にあった事例から拾い出し、そこから得られるさまざまな情報や教訓を探る。

II. 担当教員

菊 池 昌 彦

III. 一般学習目標

ニュースになった「失敗事例」から学ぶ。最近の医療過誤、医療事故などに注目し、これを「他人事」としてではなく、将来、自分が医療現場に立った場合を想定しながら学習を進める。

IV. 学修の到達目標

新聞やテレビなどで報道された医療過誤、医療事故のほか医療従事者による不祥事を検索し、①記事の概要②原因・問題点③対策・改善点④教訓を各学生が講義前にレポートしLMSにアップする。他の学生は講義日までに、このレポートを読んで質問を用意。担当学生は講義日に解説を加えながら発表し、他の学生からの質問を受ける。答えられない場合は、次回講義日までに調べて回答する。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション

6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	9	水	5	総論	菊 池 昌 彦	
2		16	水	5	情報の専有	菊 池 昌 彦	2, 5
3	8	20	水	5	誤投与	菊 池 昌 彦	2, 5
4		27	水	5	置き忘れ	菊 池 昌 彦	2, 5
5	9	3	水	5	見落とし	菊 池 昌 彦	2, 5
6		10	水	5	未熟	菊 池 昌 彦	2, 5
7		24	水	5	裁判	菊 池 昌 彦	2, 5

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

レポートの内容、レポートに対する質問回数、出席・授業態度を総合判定して判定。

(評価の割合=レポート→80%, 質問回数, 出席・態度→20%)

VII. 教科書・参考図書・AV資料

日本新聞協会加盟の全国紙, 地方紙, NHK, 民放連加盟のテレビ局が配信したニュース記事。

推薦書がある場合は、講義日に提示する。

VIII. 質問への対応方法

講義日に対応。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医 学 知 識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨 床 能 力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能 動 的 学 修 能 力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社 会 的 視 野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人 間 性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートは評価したうえで、講義日に問題点などを指摘し返却する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習＝講義前に医療過誤事件などをレポートする。

事後学習＝質問に対する回答を調べる。

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。